

久留米藩御用絵師の絵画を展示 展示担当者より

令和5年10月21日(土)から令和6年1月15日(月)まで、有馬記念館にて、企画展「故事人物を訪ねる―久留米藩御用絵師の絵画からIII―」を開催しました。本展では、久留米市が所蔵・保管する資料から、久留米藩に仕えた御用絵師・三谷家の絵師たちが手掛けた故事人物画21点を展示しました。

会場には、習作(練習として描かれたもの)や、本制作前の下絵のこと)のほか、中国ゆかりの人物や日本の武将を題材とした掛け軸を揃えました。表現方法の違いを見比べられるよう、違う絵師が描いた、同じ画題の作品を並べて展示する箇所も設けました。令和6年の干支である龍が描かれた掛け軸は、目玉作品として、ポスター・チ



展示風景

ラシ、会場配布のリーフレット、有馬記念館公式フェイスブックなどを彩りました。

掛け軸を展示するポイントとして、資料同士の間隔の空き方があります。資料が単体か、複数で1セットかで、間隔を一定にするのか、変化をもたせるのかを決めています。また、解説文パネルを含めたレイアウトや、画題の違いによって調整することもあります。

今回は、一つの展示ケース内で、単体の資料同士の間隔をすべて同じにし、対幅の資料は狭くしました。別の展示ケースでは、三幅対の資料のまとまりを出すために、間隔を調整しました。この三幅対は鮮やかな色彩がされているため、近づいて見たときに、それぞれが最も美しく見えるような配置にしました。鑑賞の際は、展示品の周りの空間にも注目してみると、違った見方ができておもしろいかもかもしれません。



作品を掛けた後は、展示ケースの外から見て、作品同士の間隔の調整を繰り返す

■ ご相談ください

久留米市では、古文書、古記録、古写真、書画、陶磁器などの美術工芸品や、民俗資料などを「文化財収蔵資料」として収集しています。対象となるのは、久留米の歴史文化に関わるもので、久留米市文化財収蔵資料審議会で定めた収集方針に基づき、受け入れを行っています。

今後、次のようなことがありましたら、一度ご相談ください。

- ・先祖から伝わった古い書類や写真、道具などがある
- ・片付けをしていたら、古いもの(古文書、古美術品など)が出てきた
- ・古い書類や骨董品の保管について心配事がある
- ・濡れたり汚れたりした古いものの取扱いについて知りたい

古いもので判断に迷ったときには、廃棄する前にご相談ください。また、ご自宅での歴史的な資料を保管していただく方法についても、ご不明なことなどがありましたらお尋ねください。

先人たちが紡いできた地域の歴史を後世に伝えていくためにも、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

【編集後記】

令和5年度も、市民の皆様を中心に多くの資料が寄贈されました。今年度は、江戸から明治時代の古文書類と、戦争関係資料としての写真や絵はがきが多かった印象です。特に写真は、当時の状況や雰囲気わかりやすく、今後ますますその重要性が高まるのではないかと感じています。こうした思いもあり、近年は写真の収集にも力を入れています。今を生きる私たちが、記録や思い出の一コマとして撮った写真が、貴重な歴史資料となる日が来るのもそう遠くないかもしれません。

『収蔵館ニュース』第20号

発行年月日 令和6年3月31日

編集・発行 久留米市 市民文化部 文化財保護課
久留米文化財収蔵館
〒830-0037
福岡県久留米市諏訪野町 1830-6
電話・FAX 0942-38-6194
E-mail bunkazai@city.kurume.lg.jp

「収蔵館ニュース」前号(第19号)はこちらからご覧いただけます。

久留米市ホームページ ➡ <https://www.city.kurume.fukuoka.jp> > 「観光魅力・イベント」> 文化財・歴史 > 刊行物の案内 > 【配布物】収蔵館ニュース